

ちびっこ広場って知っていた？

子どもたちが、自然体験・地域の大人との触れ合い・歴史や文化に触れる活動などを通して、心豊かに逞しく成長することを目的に、平成十一年より始まった通称「ちびっこ広場」(正式名称「子ども地域活動促進事業」、実行委員会が発足され生涯学習課が事務局)

初日の座禅では心もとなかった子どもたちも、翌朝の座禅ではピシッとしていたと、サポート側の感想も聞かれました。

●お寺での非日常体験が子どもたちの心に 一日一休さん体験、親子高原山登山、秋祭り、マイ箸作り、いろいろな面白い実験をする「おもしろ科楽」、ちびっこペーカリーなど全十一回の体験講座を開きました。



座禅で精神統一

特に人気が高いのは一日一休さん体験で、小学一年〜六年までの二十五人の募集ですが、毎年抽選になる程です。明本寺に一泊し、炊事、掃除、鐘つき、座禅体験などをしています。今年も、その

昨年一年生で参加した男子のお母さんは「夏だったので朝五時半の起床も六時からのふき掃除、掃き掃除も苦にならなかつたようです。シンプルなお茶も体を動かしてからのので三杯もお代りした

とか。お寺という場所での説法を聞いたり、座禅をしたり、テレビもゲームもない早寝早起きの非日常な体験ができて本当によかったです。息子は、学校も学年も違う子どもたちと一緒に寝泊まり行動することで、自分もやれば出来るという自信が「つきました」と話してくれました。

●続けられているのは、童心に返って一緒に遊ぶのが楽しいから

それぞれの講座で、事故がなく安全に楽しく終了するよう気をつけ、事務局やジュニアリーダー(高校生)、そして他のメンバーみなで力を合わせてやっています。街で「あの時のおじさんだよね」なんて声をかけられることもあるんですよ。

築瀬さんは「今ちびっこ広場に子どもと参加している若い親御さんたちが、サポートする側のメンバーに入ってくれると嬉しいですね」と期待をこめて締めくくってくれました。(R・K)

【矢板の誇り】おらがまちの芸術家

渡辺一三さん(79歳)

の「趣味の館」の玄関を開けると、目に飛び込んできたのは吊り下げられたヒョウタンの暖簾(のれん)と部屋いっぱい展示された「ヒョウタン細工」だった。ヒョウタンの栽培・細工を始めて十年。渡辺さんに話を聞いた。

◆興味を持ったきっかけ

私は六十五歳まで食料品店をしていたのですが、子供も巣立って、そろそろ自分の好きなことをやろうと思ったんです。実は、近所の方が作ったヒョウタンを見て「こんな大きなヒョウタンがある

今後は心が和む癒し系のヒョウタンを作りたい。 渡辺一三(わたなべかつぞう)さん(泉)



の「か」と驚きました。 そんなとき、地元の公民館で「ヒョウタン栽培」の講座があって受講したのがきっかけです。 ◆ヒョウタンの細工やりも： ヒョウタンは細工よりも栽培の方がずっと難しいんです。発芽するまでの保温管理、霜よけ、夏は日除けのために麦わらをかける等、手間がかかります。収穫した後の種取りの作業、洗浄そして乾燥させるのにも結構気を使います。 細工は電気ペンでし

ます。温度によって焦げ目の色が変わり、濃淡がつけます。色はマジックです。乾かないうちに綿棒で色を混ぜます。 ◆文化祭に出展 泉公民館での文化祭に出展しました。あとは、三年前に泉小学校の子供たちがヒョウタン細工をしたときに指導したこともありです。 細工を習いたいという方にはお教えしますが、最後までしっかりやるという覚悟

は必要です。 ◆これからの目標 これまででは浮世絵や仏画を描いてきましたから、これからは「癒し系」の絵を描いていきたいです。人の心を和ませるような、柔らかなて優しい絵が描かれたヒョウタンを作りたいですね。 取材の中で渡辺さんがポロツと言った言葉がある。「無心で取り組めるものがある」と人生楽しくなりますよね」 ヒョウタン細工のことをニコニコしながら、時に大声で笑いながら話す渡辺さん。何かに無心で取り組む人は、輝いている。(S・K)

◆文化祭に出展

うち綿棒で色を混ぜます。 ◆文化祭に出展 泉公民館での文化祭に出展しました。あとは、三年前に泉小学校の子供たちがヒョウタン細工をしたときに指導したこともありです。 細工を習いたいという方にはお教えしますが、最後までしっかりやるという覚悟

新年あけましておめでとうございます。 かわら版も発行5年を迎え、今27号より新しいシリーズを企画しました。大きな自然の脅威に見舞われた2011年！この東日本大震災で、私たちが多くのことを体験し、今更ながら人と地域社会とのつながりの大切さを痛感しました。今年も明るい記事を書けるだけ多くお届けできるように皆様のご協力をお願いします。

編集後記